

クレッド通信  
2016.3

# CREED通信 04

Center for **R**esearch and **E**ducational **D**evelopment



第1回 障害平等研修  
障害を取り囲む環境の変化から P.2~3



児童教育学科のFD  
エビデンス・ベースの  
カリキュラム改訂に向けて  
P.5



お知らせ  
「大学は美味しい！！」フェア P.8



第2回 東京大学F.F.P.連携事業  
「主体的な学び」で見える、  
最先端科学の目指す将来像  
P.4



お知らせ  
活動記録 2015.04 - 2016.03 P.6-7



ぜひご参加  
ください！

第1回

# 障害平等研修

——— 障害を取り囲む環境の変化から

2015年9月3日、学修・教育開発センター主催、第1回障害平等研修(Disability Equality Training DET)が行われました。大学での同研修実施は初めてとあって、報道2社の取材を受けての実施となりました。



障害平等研修は、1990年代後半からイギリスで障害者差別禁止法の推進のための研修として発展しました。日本では2014年から本格的な取り組みが始まっています。なぜイギリスと日本で実施に20年以上も開きがあるのでしょうか？

ことは1990年にさかのぼります。アメ

リカで雇用や教育、街づくり、通信などあらゆる分野での本格的な障害者差別を禁止する「障害のあるアメリカ人法(Americans with Disabilities Act of 1990: ADA)」が制定されました。これに従って諸外国で障害者差別禁止に関する法律が次々と制定され、イギリスでは1995年に制定されました。また国連では2006年に障害者権利条約が制定され、批准した国では障害者は障害のない者と同等の権利を持ち、市民として地域社会で暮らすことが目指され、その実現のために措置を講じることが約束されることとなりました。日本は障害者権利条約を批准する準備として、2013年に障害者差別解消法が制定され、2014年に障害者権利条約を批准したのです。なぜ日本では差別禁止法制化、障害者権利条約の批准が遅れたのか、という問いに対する根本的な解答は別の議論を待たねばなりません

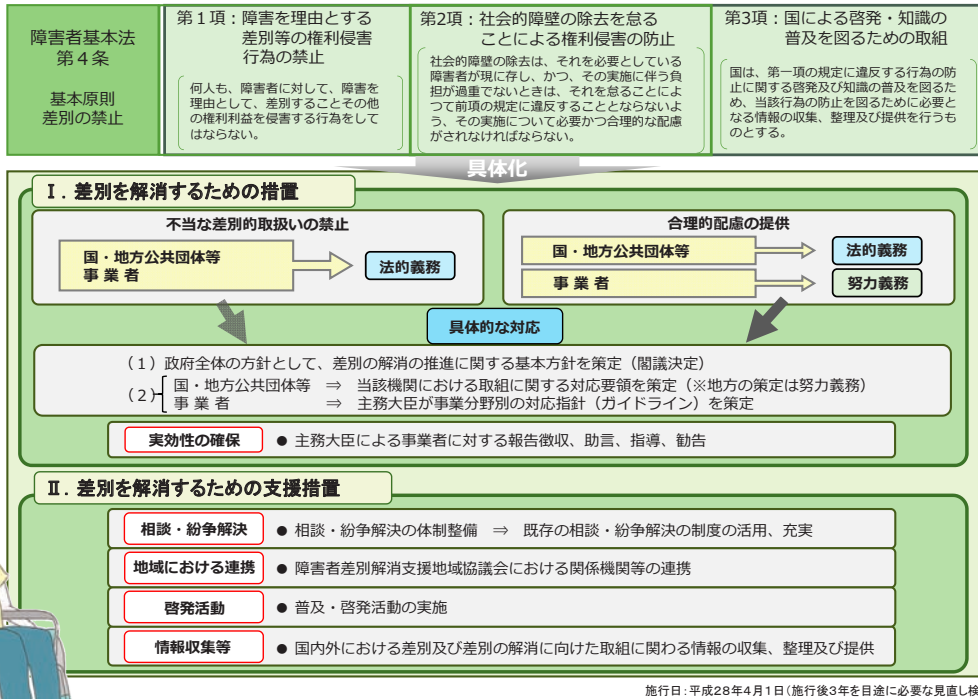
が、障害平等研修実施時期の違いは、こうした障害を取り囲む法的環境の違いから発生したものといえましょう。そして本学での実施が大学での初めての実施ということは、日本の大学についてはまだまだ障害への対応は必ずしも進んでいないということが言えそうです。

しかし、のんびりと構えていられなくなってきたのは、2013年に制定された障害者差別解消法(「禁止」という訴訟を想定した言葉ではなく、「解消」という、双方の話し合いを前提としているところが日本的だと思います)が今年の4月より施行されるためです。障害者差別解消法は、第一に、障害による「不当な差別的取り扱いの禁止」を国・地方公共団体及び民間事業者に対して義務規定しています。大学に即していえば、障害を理由として入学を拒否する、入学試験を受けさせないなどの措置を行った場合、





## 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法〈平成25年法律第65号〉）の概要



内閣府ホームページより

それは即刻差別として取り扱われます。

しかし、第二に、「合理的配慮の提供」については、国・地方公共団体については義務としますが、民間事業者についてはひとまず努力義務としています。例えば肢体不自由の学生が入学してきた場合、国公立大学であれば上下移動のためのエレベーターの設置は義務であり、設置していなかった場合には差別に当たりますが、私立大学の場合、差別とまではいえないということです。ただし、大学の場合、私立でも国からの補助金を受けていますので、一般的な民間事業者と同じというわけにはいかないでしょう。おそらくより公的な立場を求められると思われる。



さらに、主務大臣が事業分野別の対応指針を決め、これに従うことになります。大学の場合は文部科学省が決めています。これによると、①障害学生支援担当などを決め、相談窓口を設置、②学内で第三者的

組織を設置（障害学生と大学との紛争を学内で調整する、いわゆるハラスメント委員会のようなもの）、③ウェブページなどでの情報を公開といったことが決められています。これらについては本学でも早々に準備を始めなくてはなりません。



以上は、主に学生を対象とした障害対策ですが、これとは別に、雇用主として大学に求められる役割が障害者雇用促進法によって規定されており、その改正法が同じく今年の4月から施行されます。改正のポイントはまさに障害者差別解消法と同様で、「障害を理由とする差別の禁止」と「合理的配慮の提供義務」です。ただし、ここでは国・地方公共団体と民間企業での区別はありません。このように大学が障害対策を行うことは、今や当然のこととなっています。

障害に関わるのは今や「当然」などという、押し付けられている感が否めないですが、おそらく最初のきっかけはそうかし

れません。しかし、研修を受けた後のアンケートでは、参加者23人の満足度が10点満点で平均9.6、研修の内容に対して9.6、運営について9.4でした。主なコメントには、「仕事だから参加したけど、日常生活でも必要だと思った」、「これから自分でもできることを考えようと思う」といった変化が見られ、とてもうれしく感じました。「研修を受ける前は、考えを押し付けられたり、もっと世の中が優しくすべきだというような主張かと思ったけど、違った」ともあります。さあ、みなさんも気軽な気持ちで参加しませんか。障害平等研修は年に2回程度の実施を検討しています（直近は3月15日です！）ご興味を持たれた方は、田中（etanaka@tokyo-kasei.ac.jp）までご連絡ください。お待ちしております。

田中 恵美子（たなか へみこ）

本学教育福祉学科准教授（第二社会福祉研究室）。平成21年本学着任 / 研究分野：障害者の自立生活、知的障害者の結婚支援など / 著書：共著『人工呼吸器を付けますか』（メディカ出版）、単著『障害者の自立生活と生活の資源』（生活書院）、共著『社会福祉への招待』（放送大学教育振興会）



# 第2回 東京大学FFP連携事業【ミニレクチャイベント】

平成27年12月10日(木) 14:50～17:00 / 120-3B 講義室(120周年記念館3階)

## 「主体的な学び」で見える、最先端科学の目指す将来像

東京大学FFP(フューチャファカルティプログラム)修了生との連携事業として、ミニレクチャイベントが開かれた。まず、東大FFP修了生である東京大学大学院工学系研究科湯川泰弘氏による講義『臓器チップ』であなた専用の医療を創る～生物と工学の融合～が行われ、次に、同じく修了生の東京大学教養学部附属教養教育高度化機構吉田壘特任助教による講義の解説と、授業の検討会として参加者全員によるディスカッションを行った。教員・学生多数の出席を得て、活発な意見交換が行われた。

東京大学FFPは将来大学教員を目指す大学院生を対象としており、授業「大学教育開発論」を中心として、教育に関する知識の習得と技術の研鑽の機会を提供している。今回のイベントは、本学の学生には学びの機会、教員にはFDの機会、FFP修了生にはFFPにおいて学んだことを活かして実際にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業をする機会を提供した。そして、さらに三者が互いに教育についてともに考える場ともなっていた。

講師の湯川氏は、専門の精密工学の最新成果である臓器チップの詳細と、その活

用の様々な実例を紹介し、その身近な医療への貢献について「新薬開発」を例に解説した。授業方法の工夫の実践としては、理解の鍵となる「マイクロ流体デバイス」「スケール効果」など専門的な概念を、クイズや例えを使って具体的な理解を徹底し、チップの活用の可能性についてはThink, Pair, Share(各自の意見を、互いに共有するワーク)を通して主体的に考えさせた。

参加者アンケートの評価も、その工夫を反映しているものである。

- ・「臓器チップ」についてメリットや課題を知ることができ、自分たちの将来の医療に関わる問題を理解した。(学生)
- ・専門外のことだったが、実際に心臓チップの動画を見たり、私たちが日常的に使用する薬の話で興味深かった。(学生)
- ・授業の構成の仕方がわかった。要素のつなぎ方、目的目標の設定の重要性がわかった。学生主体の授業とするために、学生の立場で身近な話題を提供し、アクティビティを増やす授業をしたい。(教員)
- ・大学の授業でもプレゼンに使えるような知識を得た。面接など、人とのコミュニケーションの場面にも活かしたい。(学生)
- ・教職の授業とは別の視点から授業の構成について学べた。教材研究に活かしたい。(学生)

学生からは「このレクチャのように、授業の概要と要点を明示し、全体のシラバス

と一致させてほしい」「より多くの教員がこのプログラムに参加し、授業に対する意識を変えてほしい」など、貴重な生の声が届いた。

吉田助教のレクチャ解説で「敬意を持って・忌憚なく・建設的に」行われる意見交換の重要性が強調されたが、積極的な授業公開の機会が、授業スキルを磨き、講義内容を改善するために必須であると感じた。ミニレクチャイベントは、他大学の学生に学修の機会を提供することで大学間連携を強める事業でもあり、以降とも東京大学FFPとの協力体制を深めていきたい。

### Report Part 1

並木 有希  
(なみき ゆき)



本学英語コミュニケーション学科講師(アメリカ文化研究室)、学修・教育開発センター専門委員。  
平成24年度本学兼任 / 研究分野: 近現代アメリカ小説、都市と文学 / 著書: 平成26年度NHKラジオ講座『英語で読む村上春樹』テキスト解説

プロフェッショナルな授業とは？  
学生・院生・教職員がみんな考える。



## エビデンス・ベースのカリキュラム改訂に向けて

児童教育学科 走井 洋一

**本** 学は必ずしも教員養成を目的とした大学ではありませんが、校祖渡邊辰五郎先生による創立以来、教員養成を行ってきたとあってよいと思います。ただ、目的としていないだけに、教職員すべてが教員養成についての知識と問題意識を共有したいというのも事実です(そもそも、目的としているかどうかにかかわらず、教員養成に関する問題意識共有の困難さについての報告もあります)。そして、その難しさの要因の1つは、教員養成制度の複雑さにあると考えています。現在児童教育学科ではカリキュラム見直しを行っているのですが、教員養成を目的とし、その点では問題意識を共有しやすいはずの本学科においてさえ、教員養成制度の知識と問題意識に濃淡があることがわかってきたからです。

また、大学教育が大きく変革されようとしている現在、カリキュラムの見直しはエビデンス・ベースで行うことも求められているわけですが、教育学を専門としているとはいえ、私自身、カリキュラムに関してはまったくの門外漢ですので、それらの知見を積み重ねる必要性を痛感していました(そして、そうした勉強を独力でするには私はあまりに怠惰です……。こうした、いわば個人的な事情をも動因としつつ、教員養成に関わるさまざまなことがらを学習していく研究会として立ち上げたのが、「カリキュラム研究会(仮)」(名称すらまだ暫定的です)でした。

テーマが全学的な事柄にも関わる研究会ですので、教員養成教育推進室長の木村博人先生に御相談のうえ、同常任委員にも声がけをさせていただき、第1回を2015年6月10日に実施して以降、1~2ヶ月に1回、主に第2水曜日の16:30~18:30に、初等教育演習室(9号館2F)で実施しています(表を参照)。現在では、参加者各々が答申や文献を読んできてそこから見出せる論点を提供し、意見交換を行うというスタイルが定着してきました。

本学科のカリキュラムの見直しは、この数年のうちに教育職員免許法が改正される見込みのため、近々に行う必要があると思いますが、それと並行して、あるいはそ

れが終了した後も、この研究会を継続していきたいと個人的には考えています。というのも、制度改革はおそらく今後も継続的に行われていくことになるからです。

もしこの文章をお読みの方で、カリキュラムや教員養成、大学改革に御興味のおありの方がいらっしゃれば、教職員を問わず、走井(hashirii@tokyo-kasei.ac.jp)までお問い合わせをいただき、広く参加をいただければ幸いです。

### 2015年6月10日(水)

森村祐子「協同出版セミナー 小中一貫教育を担う今後の教員養成の在り方」報告、走井洋一「教員養成制度改革動向——戦後の教員養成制度の変遷と最新動向」

### 2015年7月8日(水)

別惣淳二ほか[2012]『教員養成スタンダードに基づく教員の質保証』ジヤース教育新社、を読む

### 2015年7月29日(水)

中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会「これからの学校教育を担う教員の在り方について(中間まとめ)」(2015年7月9日)、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程の編成に関する基礎的研究報告書5「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」(2013年3月)、を読む

### 2015年9月16日(水)

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会「教育課程企画特別部会 論点整理」(2015年8月26日)、を読む、森村祐子「教員養成教育のアクレディテーションの活用可能性を探る」報告

### 2015年11月12日(水)

山崎博敏[2015]『教員需要推計と教員養成の展望』協同出版、を読む

### 2016年1月13日(水)

中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について(答申)」(2015年12月21日)を読む

### 走井 洋一(はしりい よういち)

本学児童教育学科教授(教育学研究室)。弘前学院大学を経て、平成22年度より本学着任 / 研究分野: 教育哲学・教育人間学、道徳教育 / 著書: 『教育の現在(改訂版)』(共著)(学術出版会)、『教育的思考の歩み』(共著)(ナカニシヤ出版)、『道徳教育を学ぶための重要事項100』(共著)(教育出版)、ほか。



## 活動記録 2015.04-2016.03

### 学修・教育開発委員会

2015年5月7日	第1回委員会(東京家政大学のFD等)	
2015年6月4日	第2回委員会(教職員研究会等)	
2015年7月2日	第3回委員会(教職員からの提案企画等)	
2015年9月3日	第4回委員会(授業アンケート結果の組織的利用等)	
2015年10月1日	第5回委員会(授業アンケート結果の組織的利用等)	
2015年11月5日	第6回委員会(授業アンケート結果の組織的利用等)	
2016年2月4日	第7回委員会(授業アンケート結果の組織的利用等)	
2016年3月3日	第8回委員会(カリキュラム・マップ作成等)	※括弧内は主な検討事項

### 学修・教育開発センター会議

2015年4月23日	第1回センター会議(東京家政大学のFD等)	
2015年5月21日	第2回センター会議(前期授業アンケート等)	
2015年6月3日	第1回臨時センター会議(教職員研究会等)	
2015年6月18日	第3回センター会議(学生と教職員の交流会等)	
2015年7月16日	第4回センター会議(障害学生支援講習等)	
2015年9月17日	第5回センター会議(後期授業アンケート等)	
2015年10月22日	第6回センター会議(授業アンケートの組織的利用等)	
2015年11月19日	第7回センター会議(学部カリキュラムポリシー等)	
2016年1月21日	第8回センター会議(リサーチウィークスFDフォーラム等)	
2016年2月18日	第9回センター会議(シラバス第三者チェック等)	
2016年3月17日	第10回センター会議(次年度の東京家政大学FD等)	※括弧内は主な検討事項

### 行事

2015年4月3日	スタートアップ・エクササイズ2015年版(配付)
2015年7月3日	CREDレター№5(発行)
2015年7月4日~17日	前期授業アンケート(実施)
2015年7月31日	第3回 学生と教職員の交流会(実施)
2015年9月1日	平成27年度教職員研究会(企画)
2015年9月3日	東京家政大学における「第1回障害平等研修」(後援)
2015年10月29日	CRED通信03(発行)
2015年10月30日	前期授業アンケート集計結果(公開)
2015年11月4日~17日	大学IRコンソーシアム「一年生調査」(実施)
2015年12月10日	第2回東京大学FFP・東京家政大学CRED 合同ミニレクチャイベント(実施)
2015年12月14日~ 2016年1月15日	後期授業アンケート(実施)
2016年2月24日	東京家政大学FDフォーラム(実施)
2016年3月4日	CRED通信04(発行)
2016年3月15日	東京家政大学における「第2回障害平等研修」(後援)
2016年3月26日	反転授業レクチャ

### 出張歴

2015年4月7日~ 7月17日	毎週金曜日 大学教育開発論(東大FFP開催準備のため) @東京大学本郷キャンパス福武ラーニングセンター:並木有希
2015年5月15日	お茶の水女子大学公開FDセミナー2015 教育の内部質保証:その基盤づくりと実際-教学IRをベースにした仕組みの構築と運用- @お茶の水女子大学共通講義棟2階201:宮東城
2015年6月2日	私立大学等経常費補助金説明会 補助金制度の概要と事務の流れ(入門者向け) @文京学院大学島田依史子記念館BF仁愛ホール:宮東城
2015年6月13日	2015年度第1回大学ソリューションセミナー in TOKYO 大学改革を加速するIRの可能性 @御茶ノ水ソラシティ 2階:宮東城
2015年6月22日	大学IRコンソーシアム総会 第3回定時総会(2014年度) @同志社大学継志館3階:宮東城
2015年7月23日~24日	大学生研究フォーラム2015 @京都市民総合交流プラザホテル京都大学吉田キャンパス:並木有希

2015年10月7日	Visual R Platform体験セミナー @NTTデータ数理システムセミナールーム：宮東城
2015年10月21日	「教育の質保証」実践セミナー @TKP品川カンファレンスセンターカンファレンスルーム5A：安積和広
2015年10月23日	大学IRコンソーシアム ワークショップ-IRデータの活用とIR体制- @甲南大学ネットワークキャンパス東京：宮東城
2015年10月24日	高等教育講演会 Student Engagementについての批判的展望 @秋葉原UDX：井上俊哉
2015年11月12日～13日	第7回大学マネジメント改革総合大会 大学改革に資するIRの構築と活用 @筑波大学東京キャンパス文京校舎：宮東城
2015年11月19日	2015年度第2回千葉大学アカデミック・リンク・セミナー /ALPSセミナー 大学の新しい学修支援 -ICUにおけるアカデミックプランニング・センターの事例から- @千葉大学アカデミック・リンク・センター [棟1階コンテンツスタジオ]：宮東城
2015年11月28日	ベネッセキャリア主催 大学シンポジウム2015 学生の成長と社会での活躍 -「まなぶとはたらくをつなぐ」を考える- @青山学院大学：井上俊哉
2015年12月11日	高根大学によるTableau 導入事例セミナー @KPP八重洲ビル：宮東城
2015年12月12日	河合塾主催 2015年度国際シンポジウム 国際基準の大学教育改革 -日本・オーストラリア・アメリカの学生調査からわかること- @ベルサール九段：井上俊哉
2015年12月18日	学生調査マークシート読取り @同志社大学継志館3階：宮東城
2015年12月20日	日本テスト学会シンポジウム 大学入試センター試験，そのどこが悪いのか？ -センター試験批判の系譜と新テスト構想- @法政大学・市ヶ谷キャンパス：井上俊哉
2016年1月20日	ハンズオンセミナー「初めてのTableau」 @Tableau Japan株式会社大倉別館5階：宮東城
2016年1月22日	大学基準協会 平成27年度大学・短期大学スタディー・プログラム @TKP市ヶ谷カンファレンスセンター：井上俊哉
2016年2月22日	AP合同フォーラム 共通の学生調査を用いた学修成果の可視化への取組 -データに基づくFaculty Developmentの展開- @玉川大学大学教育棟2014：宮東城

## CREDの費用支援に基づく 学科・科主体のFD活動

- 1) 児童教育学科  
教員養成制度改革動向についての研究会
- 2) 英語コミュニケーション学科  
より効果的な学生対応のための年度末アンケートの製作と実施
- 3) 児童学科・保育科  
大学コンソーシアム京都第21回FDフォーラムに3名派遣
- 4) 服飾美術学科  
講習会「ユニバーサルファッションを考える」

## CRED購入文献

- Rによるやさしい統計学  
山田剛史ほか【オーム社】
- Rの基礎とプログラミング技法  
U.リゲス(著)石田基広(訳)【丸善出版】
- 大学教員準備講座  
夏目達也ほか【玉川大学出版部】
- 大学のIR Q&A  
中井俊樹ほか【玉川大学出版部】
- IDE現代の高等教育(2015年6月号～2016年3月号)  
【IDE大学協会】
- 反転授業  
ジョナサン・バークマンほか(著)

山内祐平ほか(監修)上原裕美子(訳)  
【オデッセイコミュニケーションズ】

- 「逆向き設計」で確かな学力を保障する  
西岡加名恵【明治図書】
- 理解をもたらすカリキュラム設計  
G.ウィギンズ(著)西岡加名恵(訳)【日本標準】
- 教員需要推計と教員養成の展望  
山崎博敏【協同出版】
- ディープ・アクティブラーニング  
松下佳代【勁草書房】
- 大学教員のためのルーブリック評価入門  
ダネル・スティープンスほか(著)佐藤浩章  
(監訳)井上敏憲(訳)【玉川大学出版部】
- 授業に生かすマインドマップ  
関田一彦ほか【ナカニシヤ出版】
- 転換期を迎えた日本の学校教育  
今川峰子【ナカニシヤ出版】
- 協同学習ツールのつくり方いかし方  
鹿内信善【ナカニシヤ出版】
- 学生、大学教育を問う  
木野茂【ナカニシヤ出版】
- 成熟社会の大学教育  
渡部信一【ナカニシヤ出版】
- もっと知りたい大学教員の仕事  
羽田貴史【ナカニシヤ出版】
- 大学におけるeラーニング活用実践集

大学eラーニング協議会ほか(監)  
【ナカニシヤ出版】

- 一斉授業の特徴を探る  
岸俊行【ナカニシヤ出版】
- 教育環境に対する大学生の満足感  
榎原國城ほか【ナカニシヤ出版】
- もっと、おいしい授業の作り方 第2版  
杉浦健【ナカニシヤ出版】

## 2015年度、CREDは 以下のメンバーで活動しました

- 所長  
井上 俊哉 (心理カウンセリング学科)
- 副所長  
平山 祐一郎 (児童学科)
- 参事  
新関 隆 (環境教育学科)  
手嶋 尚人 (造形表現学科)  
大西 淳之 (栄養学科)
- 専門委員  
佐藤 隆弘 (児童学科)  
並木 有希 (英語コミュニケーション学科)
- センター専任職員  
宮 東城  
安積 和広

## 「大学は美味しい!!」フェア — 産学連携での学び —

「大学は美味しい!!」フェアとは、大学の研究室で生まれた“大学ブランド食品”、教授と学生たちがその開発に携わった“大学発”の美味しいものを紹介する新宿高島屋の人気催です。第8回となる今回は平成27年5月28日から6日間開催され、全国34大学が出展しました。

本学では、平成24年度に採択された、文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取組のひとつとして、今年で3回目のインターンシップ出展となります。

今回は、35名の学生が参加し、不二製油株式会社の新製法で作られた豆乳クリームを使用した、和・洋菓子の商品開発・販売に挑みました。



### バーチャルカンパニーを組織

参加学生はランダムに6つのチームに分かれ、まず、栄養学科の峯木先生・和田先生に専門的な立場からご指導をいただき、市場調査・商品開発を行いました。そして、不二製油株式会社及び、菓子製造会社(吉祥寺パティスリー・ティグル、有限会社比企がたり本舗 前澤屋)の方々立会いのもと、市場調査結果・開発商品の発表および試食会を実施しました。

もともと商品開発を経験したいという参加動機をもつ学生が多く、各チームとも熱のこもった商品案が発表されました。その中から、試食会を経て全員で投票し、菓子製造会社の意見もふまえ、商品化されるお菓子が和菓子・洋菓子ともに2品ずつ選ばれました。

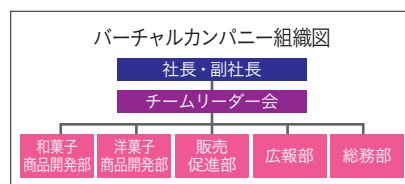
その後、商品化するお菓子を開発したチームは、「和菓子商品開発部」「洋菓子

商品開発部」、その他のチームは、「販売促進部」「広報部」「総務部」に分かれ、バーチャルカンパニー(名称:T-girls)を組織し、それぞれの業務を担当しました。

「商品開発部」は、製造ロット、原材料のコスト、保存方法などの課題から、企画段階の自分たちの“思い”をそのまま商品化する事の難しさを学びつつ、最終的な商品になるまで菓子製造会社と交渉を続けます。また、ネーミング・パッケージデザイン・販売マニュアルの作成・商品管理も商品開発部の役割になります。

「販売促進部」は店頭ディスプレイ・パネル制作、ユニホーム製作、「広報部」はホームページ・販売チラシ制作、活動記録の作成、「総務部」は高島屋との連絡や事務手続き、販売当日のシフト管理・在庫管理・出納管理が主な業務内容です。

各チームからリーダーとサブリーダーが選出され、その中から全体を統括する社長と副社長が選ばれました。社長は定期的にリーダー・サブリーダーとチームリーダー会を開催し、進捗管理を行います。進路支援センターへの連絡・相談・報告は、社長が副社長に限定しました。



### 参加した学生の成長

このインターンシップは希望していた業務に携われる学生と携われない学生が力を合わせなければ成り立ちません。また、基本的にはバーチャルカンパニーの中で、学生がほとんどの業務を行い、課題点があれば力を合わせて克服することが求められます。

従って、希望する業務に携われない悔しさを味わった学生は、より専門性を高める必要性を感じますし、様々な場面で専門性を生かせる機会があることも理解

できます。また、価値観の異なる学生や社会人が関わって組織が成り立っていることも深く理解できます。以下に、参加学生の活動終了後の感想を紹介します。

- ・机上の情報だけでなく、実際の現場を見たり実際に作ってみたりすることで多面的に物事を観察できるようになると知った。
- ・周りかどのような状態なのかを考える力や状況判断力が身についた。
- ・自分の意見を他者に的確に伝える力が身についた。
- ・相手の考えを理解する力が身についた。
- ・協力して大人数で一つのことを創造していく力が身についた。(抜粋)

### 「課題協働型」インターンシップの展開

このように、学生と地域の企業などが協働して、現場における特定の課題の調査・企画提案などを行うインターンシップが、「課題協働型」インターンシップです。教育方法としては、PBL(Project Based Learning)という側面もあります。特に専門教育と社会をつなぐ学びの機会となるだけでなく、本学学生のウィークポイントである「課題発見力」「発信力」「創造性」「計画力」などを育成する効果も期待できます。

この他に、平成27年度は、①日本ホビーショーへの出展、②北区の魅力発信、③十条商店街わくわくプロジェクトA・B、④『就活BOOK』企画・制作、⑤市場活性化プロジェクトと、積極的に展開してきました。

今後、先生方より専門的な立場からのご指導をいただければ、より一層充実した学びの場になることが期待できると思われます。

最後に、「大学は美味しい!!」フェアへの出展にあたり、多くの皆様にご指導、ご支援をいただきましたことに御礼申し上げます。

寺師 淳子(てらしじゅんこ)  
進路支援センター

